

第2回中小企業事業継続力強化計画制度研究会 議事要旨

- 日時：令和6年10月25日（金） 10：00～12：00
- 場所：経済産業省別館11階1111会議室
- 概要：

（論点1）認定状況の評価と認定事業者拡大に向けた取組

- ・ジギョケイは、取組やすさが重要なポイント。簡易版BCPという位置づけは変えない方がよい。様々あるBCPとジギョケイの位置づけ等を整理した方がよいのではないか。
- ・災害対応を考えるきっかけにするのがジギョケイ。そこに高いレベルを要求しない方がよい。あくまでも意識醸成のきっかけとしてのジギョケイという位置づけであるべき。
- ・他のBCPの認定等を受けているのであれば、「みなしジギョケイ」として認定する制度があってもいいのではないか。
- ・論点である認定状況の評価と認定事業者拡大を考える際、ジギョケイのゴールは何かも考える必要がある。ジギョケイを継続していくことなのか、BCPを作ることなのか。BCPを作っていないともジギョケイを5回作っている企業は評価してよいと考える。
- ・ジギョケイは、有事だけでなく平時の経営改善、売上拡大、働き方改革等に繋がるものとして、「経営改善に役立つジギョケイを皆さんやりませんか。」といったキャッチフレーズで普及していくのはどうか。
- ・これまで金融機関、損保、自治体・商工団体それぞれにおいてジギョケイの普及促進に取り組んでいるが、経営者と会う機会が多い金融機関はもっと力をいれるべき。
- ・一部の自治体が行っている公共工事の請負事業者の経営事項審査でのジギョケイの加点措置が全国的に広がれば、認定件数が増加していくのではないか。

（論点2）実効性の高い計画の策定

- ・ジギョケイやBCPが思うように普及していないが、事業者はカネのことになると関心が高くなる。そういう意味でも関東経済産業局が作成したリスクファイナンスシートは有効。
- ・ジギョケイを高度なものにするより、簡易なものとして入口を低くして、まずは計画を策定してもらう。その後、社内で重要性の共有や見直しを行いながら段階的に進めた方が実効性は上がるのではないか。
- ・実効性を上げていくことを考えると、計画の記載項目等は厳しくせず、本当に記載してほしい項目等は、ガイドラインやリスクファイナンスシートなどリスク等を分かりやすく見せる工夫を行い、事業者が自ら書き込むようにしたらいいのではないか。

- ・ジギョケイの様式について、例えばリスクや影響を記載したのであれば、その対策はここに記載するなど、分かりやすい構造にした方がよい。
- ・計画の入口（申請）と出口（審査）で整合性がとれている状態にしておく必要がある。申請内容の変更を行うのであれば、審査側でもそれに合わせた審査基準やチェックリストを作成し、審査のバラツキがないようにすべき。
- ・損害保険に加入していれば全て安心ではなく、リスクに応じた保険に加入することが重要。またリスクは変化するため、それに応じて定期的に見直しを行うことも必要。
- ・計画の実効性を上げて行くには、従業員教育・訓練が必要。従業員教育をフォローする仕組みがあったらよい。中小機構で行っているワークショップ（カードゲーム形式の防災対策シミュレーション）のツールを活用したらどうか。

（論点３）継続と見直しを促す取組

- ・２回目の認定を受けても、ジギョケイの認定を受けているとしか公表されない。例えば２回目、３回目といったように事業者がステップアップしていることが分かる見せ方の工夫があってもいいのではないか。その方が事業者も実感しやすいと思う。
- ・継続を促していくのであれば、中小機構が実施している認定事業者のフォローアップ支援について、認定期間が終了していても２回目の計画を検討しているのであれば支援対象にするなど、柔軟化な対応の検討をお願いしたい。
- ・事業承継がジギョケイやBCP策定の大きなモチベーションになるのではないか。